

## 上田市博物館協議会 会議概要

(様式第4号)

1 審議会名	令和7年度 第2回上田市博物館協議会
2 日時	令和8年3月19日 午後1時30分から午後3時まで
3 会場	信濃国分寺資料館講堂
4 出席者	児玉会長、小宮山会長代理、寺島委員、矢島委員、矢嶋委員、小駒委員
5 市側出席者	坂部市立博物館長、久保田信濃国分寺資料館長、石田庶務学芸係長、久保主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和8年3月31日

協 議 事 項 等

1 開 会 (坂部館長)
2 あいさつ (児玉会長)
3 協議事項
(1) 令和7年度事業報告について (資料1)
・ 資料1-1 久保主任から市立博物館事業報告について概要を説明 (会 長) 続いて、信濃国分寺資料館の事業報告について説明をお願いしたい。
・ 資料1-2 久保田館長から信濃国分寺資料館事業報告について概要を説明 (会 長) 丸子郷土博物館は何かあるか。 ・ 丸子郷土博物館について石田から報告
・ 以降、協議
(委 員) 企画展について、資料寄贈者の真苗を出してもよいのではないか。寄贈者としては、名前を公表してもらったほうがありがたいのではないか。博物館管理規則第5条寄贈者篤志の表示で「寄贈資料には、寄贈者の氏名を記載してその篤志を表示する」とある。管理規則も昔のままであるが、新収蔵資料展のようなときは、やはり名前を出したほうが良いと思うがいかがか。
(事務局) 寄贈された方の中には、名前を公表してもよいという方もいるが、個人情報の観点から名前を出したくないという方もいる。本人に確認しながら進めていきたい。
(委 員) 寄贈される方は様々な事情があり、管理の問題から博物館に資料を寄贈する方もいる。寄贈者の名前を公表したほうが良いと思う。可能な範囲で対応をお願いしたい。
(会 長) 展示行為に絡むものは、逐一寄贈者等のご了解を得て、名前を出す方向でいきたいということでしょうか。
(委 員) 寄贈資料の両刃神社とはどこか。文書一括で寄贈されたのか。
(事務局) もともと当館にあり整理されていなかった資料で、それぞれ別々に寄贈されたものである。今年度の寄贈ではないので資料が誤りである。
(委 員) 購入資料の「信濃国小県郡辰口村文書一括」は、どこかの庄屋か。
(事務局) 丸子にある飯島家文書の一部で、古書店からの購入である。
(委 員) 博物館講座の参加人数は55人、資料館の奈良時代を学ぶ会は123人。3回の開催で123人か。
(事務局) SNSを使い、募集を行った。そのほか広報やプレスリリースも行った。同様に親子向けの講座も募集したが、こちらは例年通りの参加人数だった。
(委 員) 博物館講座は5回で延べ55人とは、少ないのではないかと。募集を各回ごとにしたいと思うが。
(事務局) 各回ごとに広報で募集をしていた。

(委員) 特に少なかった回があったわけではないのか。

(事務局) 平均して参加があった。

(委員) 博物館講座は、分野が違って面白いと思っている。資料館の123人には驚いている。続日本紀の世界を多くの方が興味を持つのは不思議だ。この人数を資料館の展示に固定させてほしい。

(委員) 公文書館は、昨年講座に参加した人には、講座案内の手紙を送り、周知している。

(事務局) 個人情報保護法の関係で、講座参加者の氏名はそれ以外の目的では利用してはいけないことになっていると思うが。

(委員) 子供向け夏休みの講座のバッグヤード見学は面白いと思うが。もう少し参加があってもよいのではないか。

(事務局) 募集から開催までの期間が短く、広報のタイミングが難しい。来年度は募集の時期を6月にするか検討したい。子供だけでなく大人の方にも来ていただけるよう検討したい。

(委員) 資料館はできた当初、全国的に非常に珍しい施設だった。国分寺のガイダンス施設も兼ねた博物館施設。もう少し市民の方に理解してほしい。展示されていない民俗資料もたくさんあり、それらの資料が展示できるような施設、博物館も老朽化しているため、市民の皆さんにもう少し理解をしていただきいただきながら、新しい上田市の博物館構想を考えていく必要がある。

(委員) 親子向けの講座は、以前は学校にチラシを配っていたが。

(事務局) 広報に掲載されるものは学校には配らないということになっている。

(会長) 学校と連携をとるのが難しい。校長会に議題を出すことが大変になってきた。

(委員) 展示についてキャプションだけでなく、実際に学芸員に解説してもらえると資料が生きて、面白いと思った。来年度からでいいが音声ガイダンスを使えるようにしてほしい。

(事務局) 自分の携帯でQRコードを読み取り、そこから日本語・英語含め5カ国語の音声の流れるシステムを一昨年導入している。ただ、来館者が皆そのシステムを使って音声を聞くと、館内がうるさくなってしまうため、現在はその音声をあえて消している。文字では、一つの資料について解説はできる。

(委員) イヤホンは普及してきているので、自分でイヤホンを持参し、試してみたいと思う。

## (2) 令和8年度事業計画について(資料2)

- ・資料2-1に沿い、久保主任から市立博物館事業計画について概要を説明
- ・資料2-2に沿い、久保田館長から信濃国分寺資料館事業計画について概要を説明

(会長) 秋季企画展では、図録を作るのか。

(事務局) 図録の作成、もしくは展示品の商會をするリーフレットの準備はしたいと考える。

(委員) 美術館でも大阪城友好城郭提携20周年を記念して企画展を開催すると聞いているが、関係はないのか。

(事務局) 友好城郭提携20周年を記念した事業として、博物館だけでなく市全体で城郭提携を結んでいるため関係課(観光シティプロモーション課、美術館、櫓復元室)で実行委員会を立ち上げ、企画展やシンポジウム等のイベントを検討している。美術館は大阪城から資料を借用し、夏から9月上旬までの期間で企画展を開催。博物館は9月上旬からを予定している。

(委員) 美術館は大阪城から資料を借用するのか。博物館は?

(事務局) 博物館は、展示環境の関係で大阪城からの借用は難しい。連続して4か月くらい、このイベントは行われる。

(委員) タイトルのサーガとは何か。

(事務局) サーガとは歴史的長編物語というようなイメージ。上田城一つとっても、真田氏から始まり

仙石松平と長い歴史がある。その歴史を一つの物語のような感じで表現する展示ができればと考える。ただあまり馴染みのない言葉であるため、タイトルについては今後議論していく。

(委員) 展示スペースはいつもと同じか。

(事務局) 1階の常設展示スペースも含め、ワンフロアなるべく多くのスペースを使えたらと考える。展示する資料を検討する中で、通常よりも展示規模を大きくしたいと考える。

(委員) 上田城サーガ、蘇民将来符展、楽しみにしている。博物館は上田城址公園内にあり、資料館は国分寺にある。展示する資料など時代が限られると思うが、蚕都うえだについての時代はないのかということ、蚕都うえだは、全市的な取り組みだと思うがどのように考えるか。

(会長) 博物館は江戸時代、資料館は奈良時代がメインの展示となっている。他の時代の展示はどのように考えているのか。

(事務局) 博物館は上田城の博物館というイメージが大きい。本来は総合博物館的なものである。博物館講座は、これまでは上田藩の歴史を中心に5回開催していたが、昨年あたりからいろいろな基礎知識を広げるために自然史等を加えた内容に変更し始めている。展示にも紐付けしていけるよう検討していきたい。また丸子郷土博物館には養蚕関係の資料は豊富にある。予算の都合もあるが丸子の資料を博物館に持ってきて企画展や特別展のような形で展示することも考えていきたい。

(委員) 博物館は蚕種や真田氏中心の展示から、商人の展示や2階は近代展示が増えて変わってきていると思う。

(事務局) 唐沢B遺跡は、国の重要文化財にしたいと考え手続きをしている。資料館には考古資料以外にも、良い資料がそろっているため、展示を充実させていきたい。他の資料も見ただけの環境を作っていきたい。

(委員) 一番古い時代から中世くらいまでと信仰関係、修験道信仰も含めて資料館で展示、戦国時代から近・現代、明治大正時代はあまり展示していない。資料としてそろっているのかも不明。蚕種の関係資料はすべてであると聞いているが、今後資料の確認、整理をしてほしい。博物館で蚕糸までの調査をするのは難しい。資料は収蔵されているので調査はしてほしい。

(委員) 蚕糸業は、歴史的流れがあり技術史も見たいといけな。時代により施設も違う。

(委員) 室賀の蚕室家屋が登録文化財に指定された。技術史もあるが、秋和の家屋等壊されている。内村は養蚕が盛んで、蚕室も残っているが研究があまりない。今後の調査に期待したい。

### (3) 博物館等個別施設整備計画の改訂について (資料3)

資料3について事務局より説明

(会長) 廃止ということか。

(事務局) 市では今後20年間のうち、今抱えている公共施設を20%減らしていく方向で考えている。博物館を含む各施設は老朽化により維持費もかかってくるため、今後建替えを考える中で、それぞれ単独での建て替えではなく他の施設との複合化も検討していく必要があり、今回廃止という評価結果となっているが、博物館がなくなるわけではないことを補足させていただく。

(委員) 歴史関係の団体の中で博物館のあり方について提言のようなものが必要か。

(事務局) 今後博物館の建替えを検討する中で、博物館と他施設の複合化、マッチングについて等、様々なご意見を伺う場面があるかと思う。

(委員) 保育園・小中学校等も含め一律の評価基準となっているが建物の立地条件によっても変わってくる。老朽化からの判断はわかるが、「廃止」という言葉は強く感じる。ただ、公共施設

維持に関してしっかり判断し、厳しい決断もしていかなければならない。  
(事務局) 博物館の年間入館者数は6、7万人だが、この立地だからこそその数字。建替えを検討する中で、総合博物館として場所は上田城の近くを希望はしている。  
(委員) いろいろな要望を出し、博物館の建設について考えていく必要がある。

(3) その他 (坂部館長)

4 閉 会 (児玉会長)

・閉会のことば